

思春期妊娠に関する相談援助事業

—ハワイ州家族計画クリニックにおける事例を中心として—

千葉県 元ハワイ州カリヒ・パラマ家族計画クリニック・ソーシャルワーカー 山中 京子

1. はじめに

アメリカでは、性行動の低年齢化によって発生する思春期の妊娠が、早くから重大な社会問題として広く認識されてきた。1985年度統計では、15～19才の女性のほぼ10人に1人が、1985年の1年間に産ままたは中絶を経験していると報告されている。しかし、一方でこのような問題の深刻化に対応するため、医療・保健・福祉あるいは教育などの分野で、すでに多様な援助事業が展開されている。今回は、このような援助事業の中でも医療・保険・福祉にまたがる「家族計画クリニック」の相談活動について具体的に報告する。

「家族計画クリニック」では、思春期妊娠相談の目的を以下のように定義している。

- (1) 望まない妊娠という危機状況下に置かれた相談者を心理的に支え、彼らがこの妊娠について自分たちの力で自分たちが納得できる決定を導き出し、具体的な行動を踏み出せるよう援助する。
- (2) この妊娠を通して、相談者が彼ら自身のセクシュアリティ（身体・心理・パートナーとの関係など）のあり方に気づき、必要ならばそれを変化させるよう援助する。

2. 取り組みについて

「家族計画クリニック」とは、連邦政府の定める「社会福祉法」を法的根拠とし「のぞまない妊娠」への援助と予防を目的とする医療・福祉事業である。公共・民間にわたる多様な運営母体に対し、連邦および州政府から認可と財政的援助が与えられている。ハワイ州では、1970年の中絶合法化後、1970年代初頭に開設されたクリニックを含めて現在全島で21のクリニックが運営されている。

家族計画クリニックの活動は、医療部門と相談部門に別れている。各部門の主な業務は以下の通りである。

- (1) 医療部門（担当：産婦人科医・看護婦・臨床

検査技師）

- ①尿による妊娠検査の実施
 - ②避妊法の指導と処方
- (2) 相談部門（担当：ソーシャルワーカー）
- ①危機介入カウンセリング
 - ②教育的カウンセリング

3. 実践事例

- (1) 妊娠検査の結果がプラスだった場合

医療部門での妊娠検査の結果は、すべてソーシャルワーカーによって個室で相談者に伝えられる。もし、結果がプラスの場合、すぐに危機介入カウンセリングを開始する。

<危機介入カウンセリング>

- ①相談者の感情を充分受容する

妊娠という「予測せぬ・望まない」事態に相談者の感情的動揺は激しい。落ち込み、不安、驚き、悲しみ、怒り、自己嫌悪など、相談者の感情表現を充分傾聴し、時には沈黙にもつきあう。しかし、ある程度受容したら、相談者が現実的な対応について考え始めるよう促す。

- ②この妊娠を今後どうするか相談者の考え（大別して、中絶、出産、養子縁組）をまず確認する。

相談者の考えを確認する前に、ワーカーから、特定の考えを提案することはけししてしない。妊娠の今後に関する決定があくまで相談者の自己決定であることを保障するためである。

- ③相談者の考え以外の選択肢についても念のため簡単に説明する。

相談者の考えが少ない情報に基づいて、思いつきで選ばれていないかどうか確認する。

- ④相談者とともに彼らの考えについて諸条件を調べ、その考えの現実性を吟味する。

- ア. 中絶・妊娠・出産・育児への心理的反応
- イ. パートナーとの関係
- ウ. 親との関係
- エ. 経済力
- オ. 自分の将来についての考え方
- カ. 倫理観・宗教観
- キ. 性格など

⑤相談者が利用しうる社会資源について情報を与え、必要な場合、その資源を利用するために具体的援助を行う。

<中絶を選択した場合>

a. 産婦人科医への紹介

- クリニックでは、中絶を行う産婦人科医のリストが用意されている。連絡先だけではなく、場所、手術費用、入院の有無などについてもそのリストから知る事ができ、相談者が自分で産婦人科医を選択できる。
- 受診を確実にするため、ワーカーが面接室より受診予約の電話をかける。必要な場合は、受診に同行するなどの配慮が行われる。

b. 手術費用の公的援助などの紹介

州政府の緊急医療扶助、民間組織の一時的経済扶助、病院の手術費用割引制度などを紹介する。

妊娠を継続し、出産することを選択した場合、a. b.に加え、思春期の妊婦や母親に対し、継続的な相談援助を行っている機関が紹介される。

⑥必要なケースには、次回カウンセリングを設定する。

原則的に面接は一回約1時間程度である。もし、相談者がその時間内に結論を出せなかった場合、次回面接を2~3日以内に設定する。中絶にしろ出産にしろ、産婦人科への受診はなるべく早期が望ましいので、決定には、時間的枠組を与えることが重要である。

⑦中絶を選択した場合、中絶後避妊法やパートナーとの関係について再考する必要があることを自覚させる。必要ならば、クリニックでの面接が必要である事を伝える。

(2) 妊娠検査の結果がマイナスだった場合

プラスの結果同様マイナスの場合も、結果はワーカーより相談者に個室で伝えられる。マイナスの場合、相談者の心理的危機は一応

去ったのだから、もう援助の必要はないと思われるが、思春期妊娠の予防的観点に立てば、妊娠などへの動機づけの高まっている時点での教育的カウンセリングは非常に有効である。結果を伝えたあとすぐに教育的カウンセリングを開始する。

<教育的カウンセリング>

①男女の身体のしくみと妊娠のメカニズムに関する知識を確認する。

思春期の場合、たとえ学校の授業などで性教育を受けていたとしても、教えられた知識が、自分の身体の起こっている現実として確実に理解、実感されていないことが多い。パートナーとの具体的な性行動などをふりかえり、妊娠のメカニズムなどを体験的に理解させる。

②避妊法について知識を与え、今後二人の間でどの方法を用いるかが決定できるよう援助する。

ア. すべての避妊法について、避妊のメカニズム、長所や短所、使用法、入手方法、費用、副作用などについて、説明する

なお説明にあたっては、すべて実物の避妊具を用い、相談者自身にも実際に触れてもらう。たとえば、コンドームを装着するところを見せたあと、相談者自身にも、実習してもらう。

イ. 相談者の自己身体のイメージ、各避妊法への心理的反応、パートナーとの関係、性格、生活習慣などについて相談者と話し合い、実際に用いる方法を確実に決定する。

ウ. 選択された方法について、いつ、だれが、どこで、どのように入手するのか具体的に明らかにする。必要なら、医療部門の診察・避妊指導の予約をとる。

③パートナーとの性的関係について再検討するように促す。

ア. 相談者自身にとってパートナーの性行為はどんな意味をもっているのか改めて考える機会を与える。

イ. 2人の関係は、平等であるか、それとも一方が主導権をもっているかなど確認し、相談者自身がその関係に満足して

いるかどうか検討する。

- ウ. 相談者がパートナーとの関係に不満な場合、その関係を変えるための援助を行う。たとえば、パートナーに対していつも受動的な役割しかとれない相談者に対して、アサーティブネス・トレーニング（主張訓練）の1部を取り入れ、意識の変容をはかる。またもっと具体的に、パートナーに性交を断ったり、コンドームを使うよううまく説得したりする方法をワーカーを相手にロールプレイする。

4. まとめ

アメリカにおける思春期妊娠に対する相談援助事業は、単発的な試行段階をすでに過ぎ、かなり発展・整備されている。また、同時にそこでの具体的な相談援助技法についても、研究が進んでお

り、洗練されているという印象を受けた。一方、日本では、思春期妊娠は社会問題として認識されてきているにもかかわらず、具体的な相談援助機関も少なく、相談技法についても、科学的研究のテーマとして取り上げられていないように思われる。そこで、今回報告した家族計画クリニックでの相談事例を1つのモデルとして日本に導入するとした場合、社会的環境の異なる日本では、どんな問題点が発生すると考えられるか。問題の領域を概説する。

- (1) 妊娠にかかわる自己決定過程に親を介入させるかどうか。
- (2) 生育の過程で自己決定の経験がない相談者は決定の際、ワーカーなどへの依存がおこるのではないか。
- (3) 医療、教育、相談など各々の専門領域のきめ細かい協力関係をどの程度つくり上げられるか。(同一機関内でもよいし、各々違う機関に所属したままでもよい。)

資料 ②

ピア・カウンセラーの養成とカウンセリング事業

1. ねらい

思春期の子ども達の悩み相談の相手としては、「友人」や「先輩」が選ばれる可能性が高く、アメリカなどでは、このような考え方に基づいたピア（仲間）カウンセラーの養成と彼らによるカウンセリング事業が効果を挙げている。本事業では、これら先進国の例にならい、思春期の子ども達の抱える主として、男女交際、セックス、妊娠、出産、避妊、エイズをふくむSTDなどの諸問題に対処するため、カウンセラーの養成とカウンセリング事業の推進を図るものである。

2. 事業の概要

①ピア・カウンセラーの養成

- ・養成すべきカウンセラーとしては、思春期年齢に近い、医系・福祉系大学の学生を対象にカウンセラーを希望する者とする。
- ・養成講座は放課後あるいは学校休日に開催し、カウンセラーとして適格と認められた者については、ボランティアとして職務規定に則って活動する。
- ・カウンセラーの養成は（社）日本家族計画協会に委託する。

②ピア・カウンセリングとは

- ・ピア・カウンセリングは一般に1対1関係ではなく、カウンセラー複数対1、複数対複数関係で行う。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

アメリカでは、性行動の低年齢化によって発生する思春期の妊娠が、早くから重大な社会問題として広く認識されてきた。1985年度統計では、15～19才の女性のほぼ10人に1人が、1985年の1年間に出産または中絶を経験していると報告されている。しかし、一方でこのような問題の深刻化に対応するため、医療・保健・福祉あるいは教育などの分野で、すでに多様な援助事業が展開されている。今回は、このような援助事業の中でも医療・保険・福祉にまたがる「家族計画クリニック」の相談活動について具体的に報告する。「家族計画クリニック」では、思春期妊娠相談の目的を以下のように定義している。

(1)望まない妊娠という危機状況下に置かれた相談者を心理的に支え、彼らがこの妊娠について自分たちの力で自分たちが納得できる決定を導き出し、具体的な行動を踏み出せるよう援助する。

(2)この妊娠を通して、相談者が彼ら自身のセクシュアリティ(身体・心理・パートナーとの関係など)のあり方に気づき、必要ならばそれを変化させるよう援助する。